

DIGITABLE 第73回勉強会レポート

2014年3月15日 於：江東区森下文化センター 第一研修室



Wireless Mobile Utility を使用しての Wi-Fi リモート撮影の様子 (基礎講座予告ビデオから)

Digitable 基礎講座 「カメラコントロール、Eye-Fi、Wi-Fi 画像転送」：高木大輔講師
参加者全員による“ライトニングトーク”(持ち時間5分)
Photoshop 研究講座「ACDSee - Pro」：平野正志 講師

DIGITABLE 写真技術勉強会 (HOME) <http://www.digitable.info>

Digitable 基礎講座 2013 第10回 高木大輔講師 カメラコントロール、Eye-Fi、Wi-Fi 画像転送

デジタル撮影フローの決め手は“いかに確実に画像確認するか?、効率的にデータを移動して利用するか?”だが、画像データの移動については新しく「転送による利用」がトレンドになってきた。

■カメラ本体による画像確認

通常の撮影画像とファイル名が表示される標準モードに加え、統合表示、ホワイトバランス確認用のRGB各色のヒストグラム、カメラ設定の詳細表示モード、撮影画像に集中できる全画面による表示モードなどがあり、好みに応じて選択して設定出来るのでおさらいしておこう。

■カメラコントロールによる撮影

スタジオ撮影などでは、カメラと確認用のパソコンをケーブル接続して PC Control 撮影が多用される。

大きなモニターで隅々まで確認できるメリットはもちろん、詳細なカメラの設定も大きな画面で確実に出来る。

■Eye-Fi 画像転送

身近な画像転送方法である Eye-Fi カードは無線機能を内蔵しており、SD カードスロットで使用可能。カードをデジタルカメラから取り出したり、パソコンに接続することなく、記録した写真データや動画データをパソコンやスマホ、タブレット端末などに送ることができる。

■Wi-Fi 画像転送

カメラ本体に Wi-Fi を利用した画像転送機能を内蔵するカメラも登場してきた。

専用のアプリケーションを使用すれば、即座に画像転送できるばかりか、スマホやタブレット端末をモニター代わりに使ってライブビューを利用した撮影も可能だ。

カメラから離れたところで確認しながらリモコンでシャッターが切れるので、集合写真はもちろんさまざまなアイデアで撮影領域が広がるだろう。… (後略)

DIGITABLE 写真技術勉強会 (HOME) <http://www.digitable.info>



カメラ本体による画像確認 (統合表示モード)



二種類の Eye-Fi カードがある



カードのダブルスロットを搭載したカメラなら、RAW 画像を本体に、JPEG 画像を高速転送といった使い方が可能だ

参加者全員による「ライトニングトーク」

(各自持ち時間 5分)

YK 会員：facebook の写真アルバム 近くイタリア撮影行

IS 会員：PC のデータが飛んで HDD のバックアップ模索中

SY 会員：iPhone の写真日記から「何を見てるか？」

IF 会員：冬の風景を美しいモノクロで、美ヶ原、裏磐梯
CameraRAW8.3 のヒストグラムスライダー調整も

KS 会員：土浦近郊の田圃の風景 スライドショー作品化

AY 会員：12月撮影会の美しいモノクロプリント作品

EY 会員：ホテル撮影で背景窓の合成作品

NY 会員：D610 購入 バンドネオン奏者のポート作品

NK さん：イタリア写真雑誌記事の赤外画像処理のテク
翻訳研究中の報告 赤外用フィルターも入手した

今月の話題：Brigde の出力モードはどこへ行った？！

Photoshop 研究講座 平野正志 講師

「ACDSee - Pro」

■画像ビューワソフトで、RAW 現像ソフトも備え、「管理」、「表示」、「処理」、「オンライン」のモードに分かれている。すべての画像ファイル編集を非破壊編集できるということで、Jpeg も同様に処理できる。

■全体の構造はブリッジとよく似ている。

「表示」では一枚一枚の写真サムネールから大きく表示できる。「現像」はいわゆる RAW 現像で、Jpeg も非破壊編集になる。Jpeg を RAW 現像で開くフォトショップの操作と同じようだ。「編集」は現像後の画像の処理にあたる。現像同様に非常に多様な操作が可能だ。

■初期設定のファイル保存では別名保存で TIFF で保存されるようだ。Jpeg など様々な形式で保存可能。

PSD 形式での保存も可能だが、レイヤーは表示できない。また RAW ファイルの調整は現像での XMP ファイルが同時に残るフォトショップと違い、修正項目の記録である XMP ファイルは残らない。レイヤーなしの Tiff で修正は元に戻れないようだ。

■オンラインでは登録で 2G の保存容量と無料アカウントがもらえ、クラウド上に写真を整理・保存できる。

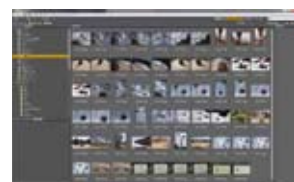
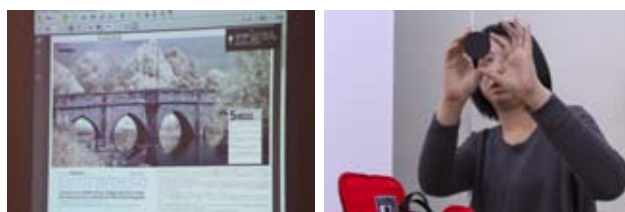
電子メール、フェースブック、ツイッターなどで写真やアルバムを共有できるとある。広告のないインターフェイスで、アルバム・スライドショーなどの公開も簡単に出来るそうだ。クラウドに収納して、出先などで使用する今風の使い方も 2G の容量では心もとないながらも使いそうだ。撮影、整理、修正、公開と一連の流れで構成されていて、公開を目指す方にはよさそうな機能だ。

なお、サムネールの印刷・コンタクトシートの制作用ソフトとしても便利に使える。… (後略)

DIGITABLE 写真技術勉強会 (HOME) <http://www.digitable.info>



今月の 1 枚：NK さん持参の赤外用フィルターをはめて、早速手持ちで実験してみるが…



ブリッジの画面



ACDSee の画面

全体の構造はブリッジとよく似ている



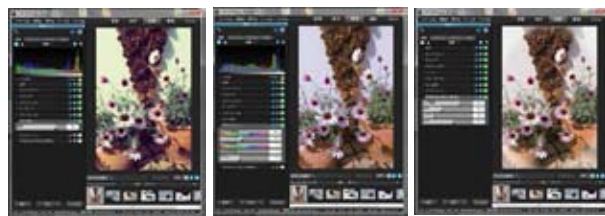
現像モード画面



モノクロ

ホワイトバランス

ライティング



クロス処理

スプリットトーン

切り抜き後の周辺光量補正

さまざまな調整メニューが用意されている